

モニタリングレポート(平成28年度)

施設名	鈴鹿市療育センター				
施設所在地	鈴鹿市西条五丁目118番地の3				
指定管理者名	社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会				
評価担当課	障がい福祉課	問合せ先	059-382-7626		
施設の運営状況	(確認方法)月次報告, 年度事業報告書				
児童発達支援事業延べ利用者数	9,889人	放課後等デイサービス延べ利用者数	1,267人	保育所等訪問事業	53件
事業収支	(確認方法)年度事業報告書				
項目	計画値(単位:円)	実績値(単位:円)	計画比(単位:円)		
指定管理料	52,523,000	52,523,000	0		
障害福祉サービス等事業収入	128,782,000	131,528,125	2,746,125		
その他	381,000	476,174	95,174		
事業活動収入計	181,686,000	184,527,299	2,841,299		
人件費(給与・法定福利費等)	113,228,000	113,196,333	▲ 31,667		
事業費	4,465,000	4,549,037	84,037		
諸謝金	220,000	218,180	▲ 1,820		
給食費	84,000	72,000	▲ 12,000		
保健衛生費	48,000	51,541	3,541		
保育材料費	1,308,000	982,826	▲ 325,174		
消耗器具備品費	2,191,000	2,722,796	531,796		
教育指導費	522,000	421,519	▲ 100,481		
車両費	87,000	75,175	▲ 11,825		
事務費	15,856,000	14,465,661	▲ 1,390,339		
福利厚生費・旅費・研修費	773,000	740,987	▲ 32,013		
事務消耗品費・印刷製本費	2,838,000	1,831,000	▲ 1,007,000		
水道光熱費	119,000	117,879	▲ 1,121		
修繕費	6,567,000	6,432,765	▲ 134,235		
通信運搬費	390,000	380,378	▲ 9,622		
業務委託費	1,659,000	1,678,430	19,430		
手数料	392,000	387,953	▲ 4,047		
保険料	477,000	354,270	▲ 122,730		
賃借料	1,617,000	1,519,411	▲ 97,589		
保守料	1,024,000	1,022,588	▲ 1,412		
負担金	10,000	10,000	0		
事業活動支出計	133,559,000	132,221,031	▲ 1,337,969		
事業活動収支	48,127,000	52,306,268	4,179,268		
施設整備等による収支	▲ 13,387,000	▲ 6,271,488	7,115,512		
その他の活動による収支	▲ 3,987,000	▲ 3,886,797	100,203		
当期資金収支	30,753,000	42,147,983	11,394,983		

評価項目	確認方法	評価	所見
業務の履行確認 (計画書や仕様書の内容を満たしているかを○×で評価)	月次報告書	○	適切に履行されている
	現地調査	○	適切に履行されている
	定例報告会	○	適切に履行されている
サービスの質 (「優良・良・普通・要改善」の4段階で評価)	アンケート	優良	要望はあるが、利用者は満足している
	現地調査	優良	利用者への支援内容は適切である
業務遂行能力 (各種財務指標等を参考に同業他社との比較も含めて○×で評価)	貸借対照表 (拠点区分)	○	純資産がプラスである。
	年度事業報告書 (収支計算書)	○	当期資金収支差額合計、当期末支払資金残高ともにプラスである。
	年度事業報告書 (財産目録)	○	資産が負債を上回っている。(差引純資産がプラス)
年度業務報告書の内容評価			○ 適 ・ 不適
業務の履行、サービスの質、業務遂行能力いずれの点においても優秀な内容である。			
定例報告会の頻度と内容の評価			○ 適 ・ 不適
月1回、自立支援協議会運営部会の前後に報告等を受けており、軽易な内容のみである。時間を要する案件がある場合は、別の日を設定するなど、必要な内容等の報告が実施されている。			
緊急時の対応評価			○ 適 ・ 不適
報告を要する案件はなかったが、法人内部での報告体制はできており、必要事項は市にも報告される。			
指定管理者の総括評価			○ 適 ・ 不適
業務の履行やサービスの質、業務遂行能力では問題はなく、また、今年度からは児童発達支援センターとして県から指定をうけ、圏域における中核施設としての姿勢も良好である。			
施設の課題と対策			
利用者の満足度等では問題はないが、利用を希望される方が多く、利用回数を増やして欲しいなどの意見があることから、今後は民間の事業所とも連携しつつ受け入れ態勢を検討していく必要がある			
施設の方向性			
利用者のニーズは高く、現施設の維持は必須である。			